

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～  
(Ref No : 20-045)

1 太平洋諸島フォーラム (PIF) の新事務局長にクック諸島の前首相ヘンリー・プナ氏が選出された。ミクロネシア地域が推すマーシャル諸島の駐米大使ジェラルド・ザッキオス氏との決選投票で、9対8で勝利した。ミクロネシア地域からは不満が出ており、パラオのウィップス大統領は、PIFは大国 (豪、NZ) とともに南側島嶼国が決定権を支配する場だとして、ミクロネシアがPIFの一部である必要はないと失望をあらわにした。一方、PIFの議長であるツバルのナタノ首相は記者会見でメンバー国間の不和を楽観視し、全ては解決され、太平洋の首脳たちは考え方の違いはあれ団結を保つだろうと述べた。

[原文](#)

(4<sup>th</sup> February 2021, Radio NZ)

2 PIF事務局長選挙の結果を受けて、ミクロネシア地域のナウル、ミクロネシア連邦、キリバス、マーシャル諸島及びパラオの首脳は2月8日会議を開催、共同声明でPIFを脱退する正式な手続きを開始すると発表した。ミクロネシア地域の5か国が脱退した場合、PIF加盟国は南太平洋の12か国となる。

[原文](#)

(9<sup>th</sup> February 2021, Radio NZ)

3 パラオのスランゲル・ウィップス・Jr大統領は、フィジーに対し、在フィジー・パラオ大使館を閉鎖することを通知した。「PIFの事務局長がミクロネシア地域から選出されなかったためPIFから脱退する。世界的に困難な経済状況の中、PIFへの参加無しにフィジー・スバの大使館の費用を正当化することはできない」とした。一方で、「この状況を非常に残念に思っており、フィジーとの二国間の友好的信頼関係は衰えることなく続く」と述べている。大使館の閉鎖は2月28日からの予定。

[原文](#)

(5<sup>th</sup> February 2021, PACNEWS)

【論説】

4 (昨年11月に発足したニュージーランド (NZ) のアーデン第二次政権の) ナナイア・マフタ外相は、NZ・中国関係は「成熟した関係 (a maturing relationship)」であり、NZは、太平洋で大きな影響力を有する大国として、米中に同等に機会を与えると述べている。これは、トランプ米大統領への支援を訴えたビーターズ前外相とは大きくかけ離れている。PIFの新事務局長となるクック諸島前首相のヘンリー・プナ氏は、中国は資金面で太平洋島嶼国への

支援を拡大し続けており、「太平洋における中国のプレゼンスと異なり、残念ながら米国は長い間存在感がなかった」と述べているが、マフタ外相の中国・米国に対する立場と共通する。アーダーン第二次政権は、今年、香港の民主化運動に対する中国の取締りを非難するファイブ・アイズの声明への署名を拒否し、中国との貿易協定を強化するなど、米国の対中姿勢にかかわらず、中国との関係を犠牲にしないことを明確にしている。

[原文](#)

(4<sup>th</sup> February 2021, Newsroom NZ)